

3. 圏域の将来像

(1) 圏域の将来像 ～ともに創る開かれたまち～

我が国では少子高齢化の急速な進行や、産業・経済のグローバル化・デジタル化など、これまで経験したことのない大きな転換期を迎えています。

地方においても人口減少の加速や地域経済の低迷など、地方自治体を取り巻く環境はますます厳しいものとなっており、効率的かつ効果的な行政システムの構築が求められています。

将来に向けて、複雑多様化する課題に対応しながら、本圏域が持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開に加え、圏域の2市それぞれが持つ都市機能や地域資源を有効に活用し合いながら、様々な課題に対して相互に連携し、圏域全体で生活に必要な機能を充実させ、確保することがこれまで以上に重要となっています。

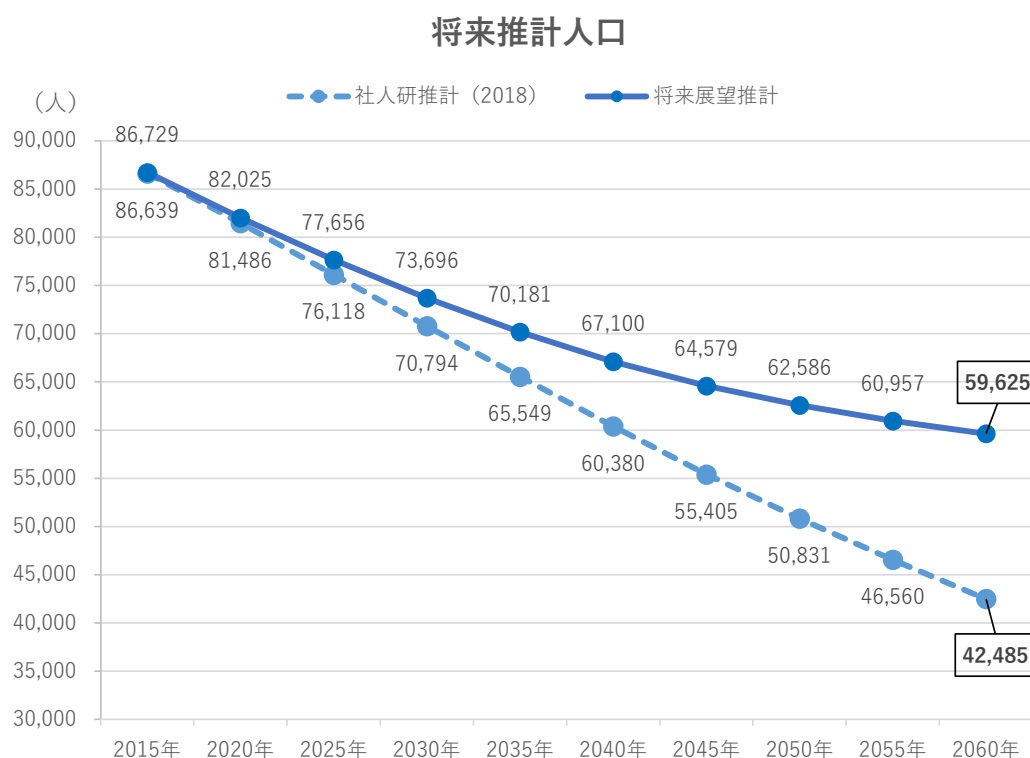
医療・福祉サービスの充実、商業・観光の振興、教育文化及び健康・スポーツ活動などで2市が互いに協力・連携することにより、圏域への人の流れを促進し、地域資源を活かした魅力あふれる地域づくりを推進します。また、若者のアイデア・行動力を活かした地域活性化を通じ、若者の地元定着及びU I J ターンの促進を図ることで、地域を支える人材育成も推進します。

（２）圏域の将来展望人口（将来推計人口）

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の将来推計人口によると、圏域の人口は一貫して減少し、２０６０年には４２，４８５人（館山市：２６，７１２人／南房総市：１５，７７３人）となると予測されています。

しかし、人口減少抑制の政策効果によって、将来展望人口は２０６０年に５９，６２５人（館山市：２９，３３７人／南房総市：３０，２８８人）となると見込んでいます。

なお、将来展望人口については、両市の人口ビジョンにおける数値を合計したものであり、互いの市からの転入人口を重複して計算していることに留意する必要があります。



「第２期館山市人口ビジョン」および「南房総市人口ビジョン」を基に作成